

ふりがな 氏名	おがた のぞみ 尾形 望	都道府県 長野県	
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・長野ユネスコ協会青年部 つなっぶる ・いづな学園グリーン・ヒルズ小学校 教諭 		
私のESD活動	<p>日常の中に「平和」について考える機会をつくる。 対話を通したつながりの場の創造</p>		

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私は長野ユネスコ協会青年部つなっぶるに所属し、仲間とともに「平和」について考える活動をしています。きっかけは自分も含めた若者の、平和について過去から学ぶ機会の少なさ、家族や学校などのコミュニティー以外とのつながりの少なさへの不安でした。いまの社会情勢、いつ他国と戦争になるか分からないそんな怖さのある世の中。しかし、どこか自分事としては考えられない無責任さを感じていました。しかし、同じコミュニティーに属する仲間とじっくり話をすることは、どこか気恥ずかしく、きっかけをつかめないでいる人は大勢いるのではないかと。そこで、立ち上げたのが長野ユネスコ協会青年部つなっぶるという団体です。そこは、多様な価値観をもつ若者たちが集まり、普段友だちとはあまり話さないようなテーマについて語り合う「きっかけづくり」の場です。平和について学び、1つのテーマについて語り合うワークショップ、スタディーツアーなど、ユネスコの理念に根ざした様々な企画を実践してきました。スタディーツアーでは実行委員長を勤め、戦争で原子爆弾が投下された長崎を訪れ、長野の若者と、長崎の若者とのディスカッション、現地の人から戦争体験を聴くなど、戦争を経験した人、長崎に生まれ育った人の話に耳を傾ける活動を行いました。これらの企画に多くの若者が参加してくれ、運営に関わる若者も増えてきています。これから先の社会を生きて、支えていく若者、その人たちに当たり前前に日常を過ごすだけでなく、立ち止まってじっくり考えるテーマを投げかけ、対話し、繋がり続けていくこと、これを継続させることも「平和」への一歩だと思い、ESD活動として展開しています。

○「長野ユネスコ協会青年部」 <https://m.facebook.com/shinshu.unesco>

○「学校法人いづな学園」 <http://www.iizuna-gakuen.info/>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思いますか？

「ESD」と聞き、どれだけの人々が具体的にその中身をイメージすることができるのでしょうか？「GAP」や「SDGs」など横文字の言葉が増え、ますます何を大切に、何に向かって活動していくのがよいのか戸惑うことがあります。けれども、それらすべては自分たちが地球上でよりよく生きていくために、今自分にできることを1つずつ積み上げ続けていくことがスタートだと考えています。長野ユネスコ協会青年部つなっぶるの一員として大学生や社会人と新たな企画に向けてのミーティングを重ねています。異年齢の若者の交流、SNSを通じて離れた場所で活動している若者との交流をさらに加速させ、ますます多くの人たちが「やってみたい、行ってみたい」と思えるような活動を企画します。また、自分たちの視点を地域にも深く向けて、地域の魅力や暮らす人の面白さ、新たな発見を通して、地域の活性化、未来に残していきたいもの、未来に築いていきたいものを老若男女みんな考えあう活動へ展開していきたいと考えています。さらに、小学校教諭として、未来に生きる子どもたちに向けてこのメッセージを発信し続けることが自分の指名であると思っています。平和・環境・地域活性・国際、ありとあらゆるテーマがあるこのESD活動に1つでも多く触れ、子どもたちに向けた授業の中で、「持続可能な未来」をテーマにプロジェクトを重視した学習を展開することで、未来を創る子どもたちを育てていきたいと考えています。